

令和7年度

伊座利小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個に応じた分かる授業の創造と実践
- 基礎・基本の徹底
- 主体的・対話的に学ぶ問題解決的な学習の充実

校長

藤崎 知幸

学力向上推進員

竹岡 玲

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個人差はあるものの学習に意欲的に粘り強く取り組み，ある程度定着が見られる。 ●語彙力が乏しく，定着が不十分のため，文章読解や表現に影響している。	・書くこと・話すこと・聞くことを大切にし，基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・語彙数を増やし，正しい言葉で文章を書いたり読んだりすることができる。	・学習を計画的に行い，ミニテスト等で習熟状況を確認する。 ・日記指導やノート指導などを充実させ，書く機会を増やす。 ・様々な機会を捉え言語活動を取り入れ，書いたり話したりする表現活動の充実を図る。 ・学校の読書環境を生かし，本の紹介をするなど，読書に興味を持たせたり，正しく文を読むことができるようにしたりして，語彙力・読解力を伸ばす。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞き，疑問点を質問したり，感想を伝えたりするなど，自分の意見を伝えようとしている。 ●自分の考えを筋道立てて説明することができず，単語での受け答えが多い。算数や理科で，考え方や理由を「図や式・言葉」で表現することができない。	・児童一人一人が考えを広げ，根拠や理由を明らかにし，自分自身の考えを進んで話したり書いたりすることができる。 ・全校での話し合い活動などで話し手の顔を見て話が聞け，話の内容に反応し，進んで自分の感想や気づきを発表できる。	・国語科と関連させながら，問題解決的な学習を展開し，根拠を明らかにして自分の考えを説明するなどの指導をする。 ・定期的に話し合い活動をし，その中で自己決定や集団決定の場を設け，それを表現する機会をつくる。 ・思考ツールを利用し，意見や考えを比較・分類することで，自分の考えを深めたり広げたりする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な態度で学習に取り組み，学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ●与えられた課題に対して真面目に取り組むが，自らめあてをもって学習に取り組む場面が少ない。	・自ら課題を見つけ，学校での学習や家庭学習，苦手な課題についても自主的に取り組むことができる。	・自主学習の進め方について具体的に児童に提示し，主体的にめあてをもって自主学習に取り組めるように指導する。 ・児童同士で，自主学習ノートを見る機会を設定し，主体的に取り組むことができるようにする。 ・授業ではICTを活用して児童の興味関心を引くような導入を提示し，写真や動画で記録し職員で共有する。 ・児童が自らめあてを見つけ出し，学習に取り組むことができるような授業展開を心掛ける。 ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方で学習に取り組めるように指導する。			